

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 29 年度 第 5 回相模原市廃棄物減量等推進審議会				
事務局 (担当課)		資源循環部廃棄物政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 3 6 (直通)				
開催日時		平成 30 年 3 月 28 日 (水) 14 時 00 分 ~ 16 時 00 分				
開催場所		産業会館 4 階 中研修室				
出席者	委員	14 人 (別紙のとおり)				
	その他	- 人				
	事務局	20 人 (資源循環部長、廃棄物政策課長他 18 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						

<p>会議次第</p>	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 審議会のスケジュールについて</p> <p>(2) 事業系廃棄物の減量化・資源化について</p> <p style="padding-left: 40px;">ア 事業系廃棄物の現状について</p> <p style="padding-left: 40px;">イ 適正排出対策の充実について</p> <p style="padding-left: 40px;">ウ 食品ロス削減について</p> <p style="padding-left: 40px;">エ 剪定枝の資源化について</p> <p>(3) 平成 30 年度相模原市一般廃棄物処理実施計画(案)について</p> <p>3 報告</p> <p>(1) 環境基本計画の位置付けについて</p> <p>(2) 市民アンケートの結果について</p> <p>(3) 空き缶等散乱防止重点地区(相模原駅周辺)の地区指定について</p> <p>4 閉会</p>
-------------	--

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

2 議題

(1) 審議会のスケジュールについて

来年度の審議会スケジュールについて、事務局から説明を行った。

(2) 事業系廃棄物の減量化・資源化について

本市の状況及び他市取組事例等について、フリーディスカッションを行った。

ア 事業系廃棄物の現状について

ファイナルキーパー（搬入物検査機）を用いた展開検査は、事業系ごみ全体のうち、どれくらいの割合で実施しているのか。

目視を含めた搬入物検査については、持ち込まれる事業系ごみの受入件数のうち、約4割において実施している。

ファイナルキーパーを用いた展開検査の割合については追って報告する。

事業系ごみの平成29年度見込み量56,000トンというのは米軍ごみを含んだ数値ということか。

また、米軍ごみを除いても現行基本計画の目標値を上回るという認識でよろしいか。

見込み量には、米軍ごみを含んだ数値である。

また、現状では現行計画の目標値を上回ってしまうため、事業系ごみの減量が喫緊の課題であると認識している。

事業系ごみの組成分析では、大部分がリサイクル可能な紙類と産業廃棄物であるプラスチックが合わせて4割含まれている。

これらを削減することで、事業系ごみの目標を達成できるが、このように、状態の良くない廃棄物を持ち込んだ収集運搬業者については、どのような指導をしているのか。

資源を多く含む廃棄物を持ち込むなど、搬入状況が著しく悪い収集運搬業者に対しては、ごみを持ち帰らせるなどの指導を行っている。

搬入物検査の基準が明確でなければ、排出事業者の減量・分別に関する努力は期待できない。

持ち込まれる事業系ごみ全量を展開検査して、排出状況の悪いものについては収集運搬業者に持ち帰らせるなど、厳しい指導を行うことで事業系ごみは大幅に減量できると思う。

イ 適正排出対策の充実について

エコショップ認定制度について、認定事業者のイメージアップと消費者の利用促進が狙いだと考えているが、認定された事業者に対する直接的なメリットはあるのか。

認定事業者は認定ステッカーや市のホームページに掲載されることでメリットがあると考えているが、例えば税優遇を受けられるといった直接的なメリットについては、今後検討していく。

搬入物検査強化について、現状、ほとんどの搬入物が評価Aとなっているが、収集運搬業者が適正な状態で持ち込んでいるということによろしいか。

搬入物検査については、指導マニュアルに基づき、厳しく指導している。

ファイナルキーパーを用いた搬入物検査や評価、適正排出に関する指導については、今後見直すべき課題と捉えている。

他市の取組について説明があったが、人口単位のごみ量など数値的な比較は行わないのか。他市の効果的な減量施策を実施しても良いのではないか。

人口単位のごみ量などは環境省の一般廃棄物処理実態調査等で公開されているため、市独自の比較は行っていない。

ごみ減量の顕著な都市における効果的な施策について、調査を行っているところ

ろである。

横浜市で、ごみ全体の4割を占める事業系ごみが大幅に減量したのは、厳しい指導の下、搬入された事業系ごみに対し、全量展開検査を実施した結果である。

○事業系ごみ組成分析の中で、紙類のうち資源化可能なものが36%とあるが、根拠を教えてほしい。

平成28年度の事業系廃棄物組成分析において、汚れていない紙類を選別した結果である。

○紙類の大部分が汚れているのは、分別されず排出されるからであって、排出元で分別を徹底することで、ほとんどの紙類はリサイクル可能である。

資源化可能なものの割合については、今後見直していただきたい。

ウ 食品ロス削減について

○相模原市で3月に実施したフードドライブについて、集められた食材はセカンドハーベストジャパンへ発送したようだが、市内で循環することが望ましい。

相模原市内では、十数か所でこども食堂を運営しているが、食材費は深刻な課題であり、市内の食品ロス関係団体等と連携した循環をすべきである。

集まった食材の市内循環については、提供先の選定や安全性等を確立し、将来的に仕組みづくりを構築していきたい。

○30・10運動は効果的な施策だが、飲食店よりも消費側への働きかけが重要である。相模原市でも職員が先導して、30・10運動の働きかけを行ってほしい。

○フードドライブでは長期間の保存が可能な食材が多く持ち寄られる。対象品目を十分に検討した上で、事業を実施して欲しい。

エ 剪定枝の資源化について

○剪定枝はごみとして排出される際、どのような区分になるのか。

家庭から排出される場合は家庭系の一般廃棄物であり、事業活動に伴って排出される場合は事業系一般廃棄物に分類される。

(3) 平成 30 年度相模原市一般廃棄物処理実施計画(案)について、事務局から説明を行った。

3 報告

(1) 環境基本計画の位置付けについて、事務局から説明を行った。

(2) 市民アンケートの結果について、事務局から説明を行った。

○前回調査との経年比較において、回答割合が大きく異なる設問がある。
年齢層や地域など、前回調査と異なる点を統計的に集計することを要望する。

指摘のあった事項を踏まえ、分析を行う。

(3) 空き缶等散乱防止重点地区(相模原駅周辺)の地区指定について、事務局から説明を行った。

4 閉会

相模原市廃棄物減量等推進審議会委員名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	安西 優花	公募		出席
2	安藤 正義	相模原市老人クラブ連合会		出席
3	五十嵐 道夫	相模原商工会議所	職務代理者	出席
4	池田 珠三子	さがみはら消費者の会		欠席
5	猪俣 聡	神奈川県立学校長会議 相模原地区会議		欠席
6	内山 尚美	さがみはらリサイクル連絡会		出席
7	王 文聡	公募		出席
8	大河内 由美子	麻布大学		出席
9	大矢 敏	公募		欠席
10	河本 博	相模原市廃棄物減量等代表推進員		出席
11	菅野 泰男	相模原市子ども会育成連絡協議会		出席
12	小清水 忠雄	相模原市農業協同組合		欠席
13	坂本 堯則	相模原市自治会連合会	会長	出席
14	成井 マユミ	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら		出席
15	原 正弘	神奈川県県央地区廃棄物処理業協議会		欠席
16	藤倉 まなみ	桜美林大学		出席
17	不破 薫	相模原廃棄物対策協議会		出席
18	本田 泰章	津久井地域不法投棄防止協議会		欠席
19	三須 城太郎	相模原地域連合		出席
20	宮津 敏信	公募		出席